

Nちゃんとう先生(3)

自閉症児を担当した一年間の保育記録

田代 和美

月十一日(火)

十八日ぶりだったが、玄関で迎えられなかった。しかしひとりて部屋に入ってきた。「おはよう」と言うところにこする。久しぶりに見たNは、背が伸びた様に感じられた。カセットを出しておかなかったので二分ほどすると「遊戯室」と言い二階のカセットを取りに行きたい様子を見せる。すぐに応えられないでい

ると体に力を入れている。用が済み「行こう」というと一度に気分が晴れたように足取り軽やかにここにこする。テープは二〇分ほどひとりで聞いていた。思ったよりもはやくカセットを聞き終えて部屋に戻ってきた。E、Y、Hが絨毯の周りを走っている。Nも私と一緒に走った。笑って私を追いかけてくる。久しぶりであったが、表情が良くてよかった。

月十三日(木)

表情がいい。なんだか楽しいらしい。カセットを聞かせなくても、今はおえかき帳を見たり、なぞったり、私に名前を書かせたりする遊びがあるのでそれらをする。遊戯室に誘うと行く。Nと私で走る。「よーいどん」と言つて端から端まで走る。久しぶりに高いところからジャンプをする(飛びついて抱き抱える)。私の顔を見て「のせてちょうだい」という。あー、サインをおぼえていられたなと思つた。

月十七日(月)

かるた遊びをするので十一時頃に星組に行った。かるたとりが始まると私の気持ちはEのほうに向いていた。Nは私の所に来て何度も「おんぶして」とおんぶをせがむ。途中カセットを聞くが、五分として聞いていない。一緒に来いとばかりに私の手を引き遊戯室に連れて行つた。Eもついてきた。絵本の部屋で「くれよんの本」と「おいしい料理の本」を見つけて見ている。その時私はEをもう一度かるたとりに挑戦させて

みよう、今ならNがひとりで遊んでいると思つた。Eに「Eちゃん、星組に行こう。Nちゃんひとりで本を読んでいるから」といった。その瞬間、Nが大きな声で泣きだした。私は一番してはいけないことをしてしまつた。一瞬私の気持ちの中でNを思っていないかつたのだろう。それを感じ取つたように思えた。私は一生懸命Nに謝つた。本当に悪かつたしやつてはいけないことだつた。自分が情けなかつた。それから思ひだしたように三回泣いた。お弁当の時には立ち直り、今日はグループの中で先生が誰もいなくても最後まで食べることができた。昼食後、お帰りまで一緒に遊んだ。今日の出来事で気持ちの大切さを改めて痛感した。

一月二十日(金)

園庭に誘つた。Nは「遊戯室」と言つて私の手を引く。「いつておいで」と言うが、ひとりでは行こうとしない。私が外に出るとNも出てくる。外に出てくるのは珍しい。飛行機ジャングルに乗つたり走つたりした。Hの作つた凧をあげてみる。初めは私があげる凧

を見て笑っていた。そのうち侃を追いかける。糸を持たせると声を出して笑う。今度侃作りもしてみようと思う。昼食時、私がいないとN先生のところに行き、身振りでおしっこを訴える。トイレにN先生を連れて行ったそうだ。私と一緒にいることが多い。そろそろ一段階登ってもよい（私の接し方もN自身も）のではないかと思う。一段階上といってもどんなものかうまく表現できないが……。

月二十八日（金）

私と一緒にないと嫌らしい。そろそろ別の人といっても楽しいと思えるようにさせてもよい時期にきたなと感じる。今日は私がEと粘土遊びをしていたのでT先生に文字書きをもらった。「遊戯室」といって私を連れていこうとする。T先生がYと遊戯室に行くところで「Nちゃん一緒にいこう」と手をつなごうとして下さるが、Nは「Y先生」といって興奮し、私の髪を引っ張る。仕方なく遊戯室まで一緒に行った。遊戯室に入ってしまうは私が立ち去っても大丈夫であっ

た。卒園まで残り少ない日々だが、ひとりでも多くの人と楽しい時間を共有してもらいたい。

二月五日（土）

初めて劇遊びに入ってみた。ちょっと無理かなという感じをうけた。途中泣きだしてしまふ。嫌な事が我慢できなくなると泣けるということは、気持ちを表現できるようになったと捉えたい。少し我慢して、少しくらい楽しい気持ちになれるような参加の仕方をしていきたい。楽器遊びの方はどうにかできそうだ。今日初めてタンバリンの役をやったが、二度目の時はだいぶ打ち方を覚えていた。

二月十日（木）

Nが当園して十分後くらいに私が園に着いた。Nに「おはよう」と言うが、色塗りをしている無表情であった。外でパンジー植えをするので「外に行こう」と誘うと色鉛筆、マーカーペン、クレヨン、お絵かき帳を持って私の後を付いてくる。しかし玄関の所で「遊戯室」といって私の手を引く。今日も「ひとり

行っておいで」と言ってみたが、泣くだけでひとりでは行けなかった。私が外に出ると上履きのままついてくる。しばらく泣きべそをかいていたが、飛行機ジャングルで私の膝の上に座ると少し気持ちが落ち着いたようだった。もう少しで卒園なので、あまり泣く事なく楽しい気持ちで過ごして行けたらよいのかなとも思ってしまう。

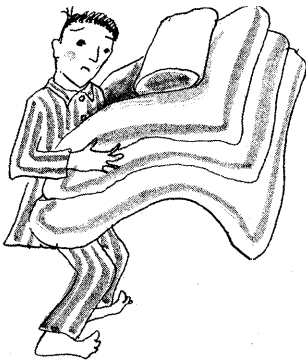
一月十五日（火）

今日は久しぶりに遊戯室で一緒に遊んだ。もう嬉しそうな顔をいっぱいに出してくれる。抱っこをしてぐるぐる回したり、一緒に走ったり、積木に登ってジャンプして飛び降りたり、本当にいい顔をしている。こんなに楽しそうな表情は久しぶりに見たような気がする。やはりNにとって一緒に体を接して遊ぶことが、まだ大切なのだなあと痛感させられる。

一月十六日（水）

ひまわり組でのカレンダーマーチ、コンコンクシャンの発表を交流クラスの友達や先生の前で行った。合

奏は、大太鼓をしっかりと自分のパートで打っている。感動してしまう場面だった。歌は歌ってくれないが、その場に立っている。もうすぐ卒園だなあと思いが、



ら見ていると何とも言えない思いである。

月十七日（木）

楽器の部屋に行き、楽器を一種類ずつ出して椅子の上到一个ずつ置いていく。私がカスタネットをたたくとそれに合わせて体を動かしている。遊戯室では私はNを追いかけてくすぐったり体を動かして遊ぶ。逃げるとき声を出して笑っている。遊戯室で一緒に遊ぶときのNの表情とひとり遊びに入っていて私が関わりようとするときのNの表情は本当に違っている。どちらがよいのかは分からないが、笑っているNはいいな、と思ってしまう。

月十八日（金）

昼食時、N先生に両手で顔を抑えてもらおうとケタケタ笑う。私以外の先生といっても楽しさが味わえるようになってきたのかもしれない。

月二十二日（火）

家を出る直前に鼻血を出したようだ。連絡帳に鼻血を出すとNはパニックになりじっとしていられず、抑

えて寝かせるしかないと言われていた。お母さんの方もパニックになってしまおうのだが、今回は表面は平静を装い「だいじょうぶだよ」となだめたようだ。すると割とすんなり横になってくれたとのこと。最後に、「不安や恐怖心を取り除いてあげなければいけなかったのですね」と書かれていた。私の知っているNはほんの一部ではないことを改めて考えさせられた。お母さんのNへの思いや前向きな姿勢を陰ながら応援してあげたい。

二月二十五日（金）

卒園式の座席順で歯磨き指導に参加した。座ってから二〇分ほどで歩き出す。Nにとっては意味も分からないし、これ以上は我慢できないだろうと思い、「おんぶ」と言われておんぶをして遊戯室にいた。星組では歌の練習、証書の授与の練習をした。今度は終わるまで所定の場所で頑張らせた。一応自分の位置は覚えて、ひとりでもM子とA子の間に行く。立とうとしたが、「だめ」と座らせた。とうとう泣き出したが「泣

いてもまだだめだよ」と言って座らせた。今回は泣いていても私は慰めてくれないし、最後までいなければいけないのだということが分かってくれるとよいのだが。先生方に甘えて笑う姿がよく見られる。お母さんは「Nなりにもうすぐ終わりだということを感じているような気がする」と言う。

二月二十八日（月）

昼食前ブランコに誘った。珍しくすぐに体を動かして外に出た。誰もいない園庭で一緒にブランコに乗った。「みんな友達」「ワンパクマーチ」を歌うとNも所々声を出して歌っている。温かな陽気で気持ちよかったのだろうか。一緒に歌うなどはめったにないことだ。素敵な一瞬だった。

三月四日（金）

体調が思わしくないようだ。顔色も悪く登園してすぐにジュータンに寝ころんでしまう。証書授与の練習が心配だったが、最後までよく頑張った。途中少し泣

きべそをかきそうになったが、どうにか椅子から立ち上がった。大声を出す事なく参加できた。昼食後に私の膝を枕にしてジュータンに横になった。絵本を二、三冊読んであげた。

三月八日（火）

体調もすっかりよくなってたくさん遊びたいらしい。しかし十一時降園と卒業式の練習など私からの思いもあり、Nの思いとうまくかみ合わない場面が多かった。もう十分遊べないのは仕方ないなど感じる。いつも以上に甘えてくるのは卒園にむけてのNの精いっぱいなのだろうかと思え止めた。

三月九日（水）

今日も練習で終わった。どうにか椅子には座っていただけるが本番に立ち歩かないか本心に心配だ。うまくできていなくてもそれがNだと受け止めてあげたい。

三月十五日（火） 修了式

寂しいけれど嬉しいことです、とお母さんとの連絡

帳に書いた。無事に大きな怪我もなく今日を迎えられたことは幸せなことだ。式の間三人ともよく頑張った。Nは途中「Yせんせい」と言って立ち上がり私の所にこようとしたり。側に行き手をつないであげると、私の膝の上に乗ってくる。内心「どうしようこのまま椅子にすわらなかつたら…」と不安になったが、説得すると椅子に戻ってくれた。そのこと以外は本当によくやっていたと思う。E、S、Nが一段階成長した区切りとして今日の修了式を捉えたい。園生活はこれから先も頑張っていけるような小さな力を身につけさせてくれる所だと思つて、今日子どもたちを見送つた気がする。

一月十五日の連絡帳より

とうとうこの日が来てしまいました。今、Nちゃんと初めて会つた日のことをしみじみと思ひだしています。何を話しかけてもそしらぬふりをされて……。それが今では「Y先生、だっこ」と何度も言ってくれた

りするほど仲良くなれたなんて！ 時の流れは早いけど着実に身についたり、つながったりするものがあるのですね。Nちゃんとはゆったり温かい時間を共有できたような気がします。知らず知らずのうちに私もNちゃんのことが大好きになつていて、家に帰つても「Nちゃんどうしているかな」などと考えてしまうこともたくさんありました。ずっと一緒にいると本当に言葉でなくても気持ちを感じ取れる時があるんですね。「あつ、今怒っている」とか「ちょっと妬きもちゃいてる」とか、時には「先生大好きよ!?」と思つてる」などとなんとなく感じるのです。もちろん思い過ぎのことがほとんどだと思つし、どれくらい当たっているかはわからないのですが……。今日(14日)、Nちゃんが「飛行機ジャングル」と言つて私を誘いました。飛行機の上に二人で座り、私は二、三曲歌を歌いました。途中、何度も私の顔をまじまじ見て抱きついてきます。ブランコも一緒に乗つてやつぱり途中後ろを振り返り私の顔を見えています。Nちゃんなりにお



ことができたのだから。

(終)

別れの気持ち表現してくれているようで胸が熱くなりました。卒園はお別れで淋しいことだけれど、それ以上に嬉しいことなのですよ。元気に新しい門出を迎える

Y先生はこの時期、再びNちゃんが自分以外の人と関われるようになることを願う。しかしそれに対してNちゃんはどうしてもY先生と一緒にいたいことを涙や行動で訴える。そして一緒に遊んでいると非常にいい表情をしている。そこでY先生は自分の願いを修正する。と、皮肉なことに逆にNちゃんが他の先生とも関わり始める。背中を押されて巣立つよりも大好きな人との関係をジャンピングボードにして子どもは巣立って行く。でもまだNちゃんはY先生と二人の世界の中にいたかった。Y先生との関係の中でNちゃんの「私」は育ち、その中だからNちゃんは安心して「私」を表現していた。この一年間の後半は、Nちゃんの方がむしろ大好きなY先生の願いにけなげに応えようとしていたように思う。修了式の練習やじっと座っていることなんて本当はNちゃんにとってはどうでもいいことなのだけど、Y先

生にもそれは分かっているのだけれど、Y先生はNちゃんを園の中で「特別」な存在にしたいかなかった。だから他の場面ではNちゃんの思いを尊重しても、でもここはしっかりやってほしいと伝えていた。そしてNちゃんは大好きなY先生の願いに応えようとしていた。そして最後にY先生は願いを持ちつつも「うまくできなくてもできなくてもそれがNだと受け止めてあげたい」と、今のNちゃんのありのままの姿を見つめている。

Nちゃんとの関係の中で、Y先生は一年間葛藤したり、分裂しそうになり続けた。しかし葛藤したり、分裂しそうになるほど揺らぎながらも人間対人間というところの対等さだけは揺らぐがずっと持ち続けていた。Nちゃんの思いと自分の願いを、いつもいつも同じ重さで考えていた。逆に言えば、対等であろうとしたからこそ、Y先生は葛藤状況に身を置かねばならなかったとも言える。しかし一年間を改めて振り返ってみると、Nちゃんの変容に最も効を奏したのは、この対等たらんとするY先生の姿勢だったように思えるのである。

付記

保育の記録や連絡帳を活字にすることを承諾して下さったY先生とNちゃんのお母さんに感謝いたします。

(お茶の水女子大学生活科学部)